

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102517		
法人名	(有)花もめん		
事業所名	グループホームクオン		
所在地	熊本県熊本市西区二本木5丁目2-10		
自己評価作成日	令和8年1月20日	評価結果市町村受理日	令和8年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺3丁目15-1
訪問調査日	令和8年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念をもとに、利用者様の気持ちに寄り添って、サービスの提供ができるように努めている。また、スタッフ間の関係が良好に築けており、働きやすい職場を目指して、介護職の離職がないように努めている。若いスタッフや外国のスタッフも活躍している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2019年の開設から少しずつ地域との交流をはじめ、運営推進会議では、様々な地域の情報を得たり、地域交流の案内を受けるなど、地域の一員として受け入れられている。開設当初に定められた理念「家温」「久遠」「最温」には、「利用者に、家の温もりを感じながら、安心な生活がいつまでも続き、最後まで音を感じながらホームで過ごしてほしい」という思いが込められている。職員は、入居時から終末期までを一緒に過ごすことを自然のこととして受け止め、理念に沿って、日々、チームで支援している。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットの管理者は、理念を理解しながらスタッフと共有し伝えている。カンファレンスでは理念をもとに、実践につなげている	利用者に、「家のぬくもりを感じながら、安心な生活がいつまでも続き、最後まで音を感じ取りながらホームで過ごしてほしい」とする開設時の思いを「家温」「久遠」「最音」と表現して、日々の支援に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に1回の運営推進会議にて意見交換を行なう。地域での活動、課題の情報を知る機会になっている。	開設から7年目を迎えようとしている。地域に根差したホームとして、また、町内会のメンバーとして受け入れられている。餅つき・花見・風揚げ等地域行事の案内を受けたり、ハロウィーンには保育園児、秋のお祭りには飾り馬、更に獅子保存会等の来訪を受け、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設近所にお住まいの独居の高齢者については、気かけ、声かけ等を行なっている。大きな貢献は、出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での活動、事故報告書、などを発表している。その中で、アイデアや参加できそうな地域の活動を知ることが出来ている。	会議では、入居者の状況、ホームでの出来事、入居者にかかわる病気や症状、認知症について等、ホーム内の生活について写真と資料を準備して説明している。委員からは地域行事の案内等、情報提供が行われている。委員の任期を1年としており、毎年、委員改選時は、運営推進会議について説明し、理解と協力を得るように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何か問題、知りたい事があれば、介護事業指導課にメールや電話にて問い合わせている。	熊本市・熊本県のホームページを常時確認している。疑問等が生じた際は、メールで市に問い合わせし、適切な回答を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回身体拘束委員会を行ない、状況確認を行っている。定期的にグループ全体の勉強会にて身体拘束について学んでいる。	法人内に身体拘束適正化委員会を設置し、3か月ごとに開催している。会議の結果は、職員に周知されている。日々のケアでは、声の大きさ、口調、トーン等、利用者への声掛け時に配慮するよう日々指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1年に2回虐待防止防止委員会を行ない状況確認を行なう。定期的にグループ全体の勉強会にて虐待防止について学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1年に1回グループ全体の勉強会にて権利擁護を学んでいる。活用については、会議で検討する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当者が行なうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望などあったときには、外部者(運営推進会議等)に表せる機会をもうけている	利用者の様子については、電話やSNS家族にこまめに報告しており、安心に繋げている。運営に関する家族の意見等は少ない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞きやすいようにしているが、要望がすべて上がってきているかは不明である。また、意見がある場合には反映されるように検討している	管理者は、日頃から職員間のコミュニケーションに配慮して意見の言い易い職場作りに努めている。感染症のため職員体制のシフトが組みづらい時期も助け合う環境が出来ている。職員から出された意見や提案等は、必要に応じて、法人内の管理者会議で検討され決定される仕組みとなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を設け、各自が向上心が持てるよう、また、資格取得なども積極的にできるようにしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	熊本県が行なっている認知症の研修等に応募し、実践者研修などを受けることができるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はほとんどないが、地域包括支援センターが開催する地域の研修会には積極的に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設での生活が本人らしく生活ができるようにアセスメントし、本人、家族の要望に耳を傾けるように心がけて対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	キーパーソン及びその他の家族との信頼関係が築けるように家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者がサービス提供するために必要な支援を検討し、またその他の職員も情報収集し何が必要かを見極め、検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にできることを把握し、少しでもできることは本人に行なってもらおうよう声かけし対応している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設にて生活していても、家族で支援できる部分は家族にお願いするようにしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会以外にも、感染症に注意しながら外出することができ、家族以外でも近所、友人などの面会する機会を作っている。	コロナ禍以降、面会はホーム内の地域交流室で10分程度としている。学生時代の友人、以前のお隣さん、民生員をしていた頃の地域の人など、家族以外に馴染みの方の来訪もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、顔なじみになっており、食事する際のテーブルの配置、席順などを考慮し安心して過ごせるように配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了するとその後はほぼ関わりはない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者本人を検討し、思いや意向を検討しながらケアプランの作成ができています。	洗濯物のタオルは畳めても、他のことはできない人、職員の姿が見えなくなると大きな声が出る人など、一人ひとりの出来ること、状態を細かに観察し、探りながら、思いや意向の把握に取り組んでいる。	小さな気づきを記録に残し、職員間で共有し、利用者本位の支援に繋がる仕組みづくりを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報での生活歴を把握し、馴染みのある方との交流や自宅ですごしていたような話を思い出してもらい声かけなどを行ない、はたらきかけている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握ができるように、それぞれユニットの管理者は日勤帯で勤務し、職員間の申し送りにて現状の把握につとめ繋げている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者に合わせ、個別の計画書を作成できている	モニタリングでは、ケアスタッフの意見を確認してプランの見直しが行われている。書道が上手、バスガイドだったから歌が上手、食事は自力で食べられる、服は自分で選べる等、利用者が今持っている能力を大切に、出来ることが長く継続できるように目標を設定し、ケアプランが策定され支援されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に細やかに残すようにしている。また共有する情報は申し送りノートを活用して全職員に周知している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランをもとにサービス提供しているが、問題があればそれ以外でも柔軟な対応ができています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、民生委員など地域の方との交流もできているが、入居者全員が関わることはできていない。家族との面会などはある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるようにしている。また訪問看護事業所、主治医ともに連携もとれている	かかりつけ医の選択は家族の意向を尊重しており、通院は家族同行を基本としている。訪問診療を希望する利用者には、往診可能なクリニック等の紹介を行っている。毎週1回、訪問看護ステーションの看護師による健康管理が行われている。状態急変等の際は、施設職員のみならず、訪問看護師を通して主治医への連絡が取れる体制が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所にて契約している訪問看護の定期的な訪問にて、状態の報告、経過観察の結果などを報告し、主治医に繋げる事ができている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換、情報の提供に積極的につとめ、また退院後には施設での受け入れができるかなどの相談に応じている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合等については指針を定め、指針をもとに意思の確認書を作成し本人、家族の意思を確認し、必要があれば医師を含めた話し合いを行なっている。	入居時に、「重度化した場合における（看取り）指針」について説明し、その後、毎年「急変時や終末期における医療等に関する意思確認」を行っている。更に、終末期が近くなると「看取り介護についての同意書」で家族の意向を確認するなど、家族の思いを丁寧に確認して支援している。職員は、入居時から終末期までを一緒に過ごすことを自然のこととして受け止め、理念に沿って、日々、チームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練は行なっていないが、事故発生時の対応はマニュアルに沿って対応できるように周知している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応については、火災避難訓練、水防避難訓練は実施することができている。訓練時には全員参加を促している	2025年度は9月と1月に利用者も参加して避難訓練を実施している。1月は消防署の協力を得て水消火器の使用訓練も行っている。避難済みの居室はドアを閉める等、消防署からのアドバイス等も受けている。8月豪雨の際は、西部公民館に入居者全員が避難する経験をしている。幸い入居者、ホームに被害は出ていないが、経験を通して避難先についての検討や、備蓄品の見直し等を行っている。	今後は、夜の災害を想定した避難訓練の実施も期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーを守れるように対応できている。	排泄・入浴・更衣介助時は、ドアやカーテンを閉めて他人の視線を遮るよう配慮している。面会者の来訪を伝える時や、おふろへの声掛け等、該当者以外の方の気持ちが動揺しないように、本人だけに聞こえるように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日の状況に合わせて、自己決定ができるように問いかける声かけを行なっている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホーム内にて、一日の過ごし方については一通り決めてしまっている。その中で各利用者のペースで体調に合わせて支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみ、整容ができるように服を選んでもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症予防のために食事に関しては、一緒に食事を準備することはしていない。	食事は外注しており、調理済みの食品が冷凍・冷蔵で届けられ湯煎等で適温にして提供している。ご飯と汁物はホームで準備している。誕生日はお赤飯でお祝いしている。スイカ・ミカン・メロン等の果物はおやつとして提供している。近隣から頂いた新鮮な梅やブルーベリーをジュースやジャムにして楽しむ機会もある。	毎日1食でも職員が検食し、検食簿に記録して、定期的に食事についての見直しを行うことも期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分摂取量について、全利用者の一日の量は把握できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日4回、口腔ケアを行ない、介助が必要な方には介助し、歯磨きの方法もブラシを磨きやすいものに変えたりなど検討しながら対応している。必要に応じて訪問歯科を利用している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、失禁しないように早めに声かけ、誘導するなどひとりひとりに対応している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、早めの声掛けでトイレでの快適な排泄となるよう支援している。家族への経済的負担にも配慮して、より個々人にあった排泄用品の使用となるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医、訪問看護師など助言をもらいながら便秘にならないように予防に努めている。また内服や外用薬にて排便コントロールしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯などは決めている。個々の希望にそった支援はできていない	週に2～3回の入浴を基本としている。入浴好きで、長湯を好む入居者が多く、体調を見ながら1対1の介助で、会話をしながら楽しい入浴となるよう支援している。入居者の重度化にともない浴槽に浸かれる人が少なくなったため、シャワーストレッチャーの導入を予定している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活が送れ、空調、照明を考慮している。寝具の入れ替えも家族の支援を受け各利用者に応じて調整している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅在宅管理指導により、担当の薬剤師が管理している。介護士はセットしたものを誤薬などの自己が起きないように介助している。内服の情報は常に介護記録の中にファイリングしており、いつでも確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日ごろ、楽しみや気分転換ができるように、レクリエーションを取り組んで行なっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お墓参り、区役所での手続きなど必要に応じて家族が付き添い、支援することができている	気候が良い時期には、少人数でのドライブは行われているが、計画的な外出は少ない。コロナ禍以降、家族との外出でも飲食を伴うものは控えるようにお願いしている。	外気に触れ、季節を感じられるお花見等、家族等の支援を得ながら外出支援の取組を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失やトラブルがないように、お金を利用者が所持していない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話での対応ができる利用者には、電話をつなぐようにしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの環境については、空調をはじめ、電気、換気、湿度などを考慮している。また花を飾るなど楽しめるようにしている	日中、入居者はほとんどリビングで過ごしており、気の合う人同士ゆっくりできるように、また、転倒しやすい人は安全にすごせるように配慮した座席にしている。キッチンリビングに面しており、職員が見守りしやすい造りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席順の配慮は何度も検討し、慣れた場所、馴染みのある他利用者の顔で安心できるように常時考慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の部屋だとわかるように写真を飾ったり、自宅で使っていた時計、たんすなど部屋に置いている	転倒リスクや、医療的ケアを受けやすいように配慮された部屋、お花や仏壇、化粧品、家族写真等が置かれた部屋、総理大臣から受けた賞状が飾られた部屋など、それぞれの生活、思いに沿った部屋作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内にて出来る事を続け、自立した生活が送れるように支援している		